

強い、大将の話

小川未明

青空文庫

ある国に、戦争にかけてはたいへんに強い大将がありました。その大将が
 間は、どこの国と戦争をしても、けつして負けることはないといわれたほどでありま
 す。

それほど、この大将は知略・勇武にかけて、並ぶものがないほどでありました。
 それですから、よくほかの国と戦争をしました。そして、いつも勝ったのであります。

あるとき、隣の国と戦争をしました。それは、いまままでにない大きな戦争でありま
 した。そして、両方の国の兵隊が、たくさん死にました。隣の国では、今度ばかりは
 勝たなければならぬといっしょうけんめいに戦いましたけれど、やはりだめでした。そし
 て、とうとう最後に負けてしまいました。けれど、さすがの強い大将も、今度はやつ
 と勝ったというばかりで、みな家来のものもなくしてしまいました。

大将は疲れて、生き残ったわずかな人たちとともに、都をさして戦場から歩い
 てきました。そして、戦争のために荒れはてた、さびしいところを通らなければなりま

せんでした。森も林も、大砲の火で焼けてしまったところもあります。広い野原に、青草ひとつ見えないところもあります。まったく昔の日と、あたりの景色がすっかり変わってしまいました。

ある日の暮れ方、大将は、まったく路に迷ってしまったのであります。

二

このとき、あちらから目を泣きはらした、貧しげな女がやってきました。その女は、もうだいぶの年とみえて、頭髪が白うございました。

大将は、女を呼び止めて、都へゆく路をたずねました。

「あなたは、どなたさままでございますか。」と、年老った女は、泣きはらした目を上げて尋ねました。

「おまえは、俺を知らないのか、今度大戦争をして、ついに敵を負かした、大将が俺だ。」と、大将はいわれました。

年老った女は、じつとその顔を見上げていましたが、

「あなたは、地図をお持ちにならないのでございますか。」と申しました。

「ああ、この大戦でみんな焼けてしまった。」と、大將は激戦の日の有り様を目に思い浮かべて答えられました。

すると年老った女は考えていましたが、さびしい細い路を指さして、

「これを、まっすぐにおゆきなさるとゆかれます。」と申しました。

大將は、わずかな家来を引き連れて、その路を急がれました。けれど、どこまでいっても人家がありません。やつとたどりついたところは、いつか激戦のあった、思い出してもぞつとするような戦場であつて、ものすごい月の光が照らしていたのであります。

三

「こんなところへきては、後ろへもどるようなものだ。あのおばあさんは、うそをいったな。」と、大將は怒られました。その夜は野宿をして、翌日、またその道を引き返したのです。

今度は、あちらから、白い着物をきて、髪を乱したはだしの娘がきました。大将は、その娘を呼び止められました。

「俺は、大将だが、都の方へゆく路は、どういったがいいか。」と、おたずねになりました。

娘は、悲しそうな顔つきをして、大将の顔をながめていましたが、「この路をまつすぐにゆきなされば、あなたの思召しなされるころへ出られます。」と申しあげました。

大将は、うなずかれて、この娘は正直者らしいから、けっしてうそはいうまいと思われて、娘の指さした路を急いでゆかれました。

やはり、どこまでゆきましても、人家らしいものは見あたりませんでした。やっと、たどり着くと、そこはまだ新しい墓場で、今度の戦争に死んだ人のしかばねがうずまっついていて、土の色も湿っていたのでありました。

「俺は、こんなところへきたいと思つたのでない。じつに不埒なやつらだ。なんでこの名誉ある俺を、みんなが欺くのさ。」と、さすがの大将も、ひどくお怒りになりました。

四

また、すぐすごと、大将はきた路をもどらなければなりませんでした。

そのうちに、いつしか、その日も暮れかかったのであります。すると、あちらから、おじいさんが、つえをついてきました。大将はそのおじいさんを呼び止めて、自分は大將であるが、都へ帰ろうと思つて道に迷つて、二人の女たちに路をきいたら、みんなうそをいったが、それはどういうものだろうと問われたのであります。

おじいさんは、つえにすがつて、背を伸ばしながら答えました。

「年老つた女は、母親であつて、その子供が戦争にいつて、死んだのを深く悲しんでいるからであります。」と答えました。

「そんなら、娘は……。」と、大将は問われました。

おじいさんは、

「その娘は、結婚して、まだ間もないのであります。それを夫が戦争にいつて、死んだのを深く悲しんでいるからであります。」と答えました。

おじいさんは、大将に、都にゆく路をていねいに教えました。大将は、今度は、

まちがいなく都みやこに帰かえられました。そして、高たかい位くらいに上のぼりましたが、大たい将しょうは、また一め面めんにおおいて人にん情じょうにも深ふかかつた人ひとで、死しんだ人ひと々に同どう情じょうを寄よせられて、ついに大たい将しょうの職しよくを辞じして、隠いん居きよされたといいうことでああります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 二 講談社

1976（昭和51）年11月10日第1刷

1977（昭和52）年C第3刷

※表題は底本では、「強《つよ》い大将《たいしょう》の話《はなし》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：江村秀之

2013年9月8日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

強い大将の話

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>